

# 第37回 頭頸部・胸部画像研究会

- 日時：平成20年5月24日（土）13：00～17：30
- 会場：東京コンファレンスセンター・品川 4F大ホールA  
東京都港区港南1-9-36アレア品川  
電話：03-6717-7000
- 当番世話人：塚本 浩（静岡市立清水病院）  
横山 健一（杏林大学）

## <頭頸部>

代表世話人：山田恵子（癌研有明病院）

世話人：浮洲龍太郎（昭和大横浜市北部病院） 尾尻博也（慈恵医大）

栗原宜子（聖マリアンナ医大） 黒崎喜久（慈生会病院）

酒井 修（ボストン大） 鈴木恵子（阿佐ヶ谷すずき診療所）

辰野 聡（東京歯科大市川総合病院） 塚本 浩（静岡市立清水病院）

顧問：多田信平

## <胸部>

代表世話人：南 学（筑波大）

世話人：荒川浩明（獨協医大） 岩沢多恵（神奈川県立循環器・呼吸器センター）

氏田万寿夫（慈恵医大） 叶内 哲（埼玉県立循環器・呼吸器センター）

櫛橋民生（昭和大横浜市北部病院） 楠本昌彦（国立がんセンター中央病院）

栗原泰之（聖マリアンナ医大） 甲田英一（東邦大医療センター大橋病院）

酒井文和（埼玉医大国際医療センター） 佐藤雅史（東邦大医療センター大橋病院）

中島康雄（聖マリアンナ医大） 横山健一（杏林大）

顧問：土井 修、蜂屋順一

※当日、会費1,000円を徴収いたします。

※研究会後に情報交換会を予定しております。

## 演者へのお願い

原稿の読み上げはご遠慮ください。発表はパソコンを使用します。基本はデータの持ち込み（USBメモリースティック、CD）としますが、データのコピーなど不都合が生じる場合及びMacの場合、ご自身のパソコンをご持参ください。

一般演題のご発表は6分、質疑2分にてお願い致します。

共催 頭頸部・胸部画像研究会  
テルモ株式会社

## － PROGRAM －

13:00 開会の辞 塚本 浩

13:05 特別講演 1

### 『頭頸部癌に対する動注併用放射線治療の役割』

司会： 塚本 浩 (静岡市立清水病院)

講演： 不破 信和先生 (南東北がん陽子線治療センター)

【抄録】頭頸部癌への動注療法の歴史は古いが、カテーテルの位置確認は色素の注入による方法であったため、その治療効果は不安定であり、動注療法の評価は上顎癌を除き、標準治療としては定着しなかった。

1985年に服部らは先端がJ型になっているカテーテルを考案し、浅側頭動脈から総頸動脈までガイドワイヤー下に挿入し、透視下でカテーテルを引き上げて目的動脈まで挿入したのが浅側頭動脈からの選択的動注療法の最初である。

米国での選択的動注療法は大腿動脈からのセルジンガー方式が主流であり、1990年代からはRobbinsらが開始した大量のCDDPとその中和剤であるチオ硫酸ナトリウム(STS)を同時に静脈から投与する方式が開発された。この透視下に選択的にカテーテルを目的動脈に挿入する技術が開発されたこと、またRobbinsらの良好な治療成績から現在、再度、注目を集める様になった。

カテーテルを目的動脈に選択的に挿入した場合の腫瘍内の薬剤濃度は外頸動脈の動注に比し、約3倍増加することが確認されている。また外頸動脈からの動注の場合、腫瘍内濃度は非常にバラツキがあるのに対し、選択した場合の濃度は均一であった。このことは日常臨床で経験する事象と良く符号する。

近年、頭頸部進行癌に対する全身投与の化学療法と放射線治療の併用による化学放射線療法の有効性が確認されつつある。しかし同じ扁平上皮癌であっても亜部位により、その感受性は大きく異なる。上咽頭癌、中咽頭癌は放射線や抗がん剤の感受性は良好であり、次に下咽頭癌、声門上部癌が良好である。同じ喉頭癌であっても声門上部癌は声門癌より感受性は高い。感受性の乏しい亜部位はこの声門癌、舌癌に代表される口腔癌、上顎癌と考えられる。従って動注療法の臨床上的役割が重要と考えられる亜部位は声門癌、舌癌に代表される口腔癌、上顎癌であると考えられる。

本研究会では動注療法の現状、愛知がんセンターでの治療成績について報告し、頭頸部扁平上皮癌における動注併用放射線治療の役割について私見を述べる。

14:05 一般演題（頭頸部①）

座長： 尾尻 博也（東京慈恵会医科大学）

#### 演題 1 T2 強調像低信号の耳下腺多形腺腫症例

関西医科大学滝井病院・放射線 \*関西医科大学枚方病院・放射線 \*\*関西医科大学枚方病院・病理

池田耕士、川口あすか\*、前原さおり\*、前原稔\*、大村直人\*、池田茂樹\*、黒川弘晶\*、坂井田紀子\*\*、植村芳子\*\*、米虫敦、播磨洋子、澤田敏\*

【要旨】多形腺腫は通常 T2 強調像で耳下腺組織より高信号であるが、本症例は低信号であり非特異的である。

しかし腫瘍の辺縁が分葉状（八つ頭状）で被膜を認める所見は多形腺腫に特異的であり、診断可能であった。

#### 演題 2 Mondini' s deformity を呈する感音性難聴の同胞発症例

聖マリアンナ医科大学・放射線医学教室

栗原宜子、中地俊介、岡本恭子、高橋美緒、中島康雄

【要旨】内耳発生異常の Mondini' s deformity には伴性遺伝症例の報告が認められる。当院で感音性難聴を主訴に来院した兄弟例を経験したので、その CT, MRI 像を供覧し、文献的考察を加え報告する。

#### 演題 3 多発性顔面神経鞘腫の 1 例

癌研究会有明病院・画像診断部

田中宏子、山本弥生、植野映子、山田恵子、河野 敦

【要旨】64 歳の男性。10 年前から右耳下部腫瘍を自覚していたが、右顔面神経麻痺出現のため来院した。MRI にて右乳突部顔面神経管内から顎下部まで顔面神経に沿って多数の腫瘍を認め、生検で神経鞘腫と確認された。

#### 演題 4 耳下腺 Sialolipoma の 1 例

自治医科大学・放射線医学教室 同とちぎ子ども医療センター・画像診断部\* 同・病理学教室\*\*

藤田晃史、木島茂喜、坂本敦子、佐藤陽介、竹内美砂子、木村有喜男、大竹悠子、杉本英治、藤田和俊\*、金川公夫\*、相原敏則\*、田中亨\*\*

【要旨】1 歳 7 か月の女児。生下時より右耳下部に固い腫瘍を認めた。徐々に増大傾向を示し、6cm に達したため手術目的に紹介受診。摘出術が施行され、Sialolipoma と診断。若干の文献的考察も含めて報告する。

14:45 一般演題（頭頸部②）

座長： 黒崎 喜久（慈生会病院）

演題5 鼻腔内に発生し、蝶口蓋孔、翼口蓋窩、正円孔および眼窩内を經由し、頭蓋内進展した腺様嚢胞癌の1例

昭和大学横浜市北部病院・放射線科 同・耳鼻科\* 同・病理科\*\*

児島久美子、浮洲龍太郎、馬場麻衣子、藤澤英文、武中泰樹、福下貴子、八木進也、楡橋民生、石田良\*、門倉義幸\*、塩川章\*\*

【要旨】36歳男性。半年前から鼻出血、鼻閉感、左頬しびれ、頭痛が相次いで生じ脳MRIを施行。鼻腔から副鼻腔、翼口蓋窩から正円孔、および眼窩を経て、頭蓋内進展する嚢胞を伴った腫瘍性病変がみられ腺様嚢胞癌であった。

演題6 下顎骨骨肉腫の一例

昭和大学歯学部・歯科放射線学教室

花澤 智美、木村 幸紀、岡野 友宏

【要旨】患者は、48歳男性。左側下顎臼歯部の腫脹としびれを主訴に来院した。CT画像では、腫瘍は下顎管にまで達し、内部に硬組織の造成と針状の骨膜反応が見られた。画像を供覧し、若干の文献的検索を加えて報告する。

演題7 歯科インプラントのCT検査における被曝軽減の試み

日本大学松戸歯学部・放射線学講座

森進太郎、金田 隆、阪柳雅志、佐々木悠介、加藤正隆、加藤美弥、関谷恵子

【要旨】近年、歯科インプラント治療の普及に伴い、インプラント術前検査としてのCT撮影件数が増加傾向にある。今回我々は、歯科インプラントCTの撮影条件を検討し、大幅な被曝軽減の可能性が示唆されたので報告する。

15:15 コーヒーブレイク (10分)

15:25 特別講演 2

『縦隔腫瘍の画像診断：縦隔腫瘍取り扱い規約の紹介を兼ねて』

司会： 横山 健一（杏林大学）

講演： 藤本 公則先生（久留米大学医学部附属病院 画像診断センター）

【抄録】第 24 回日本胸腺研究会で提案され、検討されてきた「縦隔腫瘍取り扱い規約」が本年に発刊予定である。画像診断小委員会の一員として参画してきた立場からこの規約が広く用いられることを期待し、各委員の了解のもと簡単に紹介し、画像診断の役割について概説する。また各腫瘍性疾患の画像上の特徴と病期診断における有用な所見についても述べる。

16:25 一般演題（胸部） 座長： 栗原 泰之（聖マリアンナ医科大学）

演題 1 稀な肺の血管腫（孤立性毛細管血管腫）について—画像と病理の対比—

国立がんセンター中央病院・放射線診断部 同・臨床検査部\* 同・呼吸器外科\*\*

楠本昌彦、渡辺裕一、荒井保明、 薦幸治\*、浅村尚生\*\*

【要旨】47歳女性。胸部 CT で右肺下葉に辺縁部にすりガラス状陰影を伴った結節がみられた。肺腺癌の術前診断で開胸生検を行ったところ、上記病理診断に至った。過去の当院の症例を含めて CT 所見と病理像について例解する。

演題 2 好酸球性肺疾患の画像所見（第 3 報）～慢性好酸球性肺炎について～

東京慈恵会医科大学・放射線科

氏田万寿夫、荻野展広、北井里美、並木珠、福田国彦

【要旨】2003～2007 年の 5 年間に、慈恵医大附属 4 病院において慢性好酸球性肺炎の臨床診断が得られ、初診時の画像が入手できた 12 名における臨床像ならびに画像所見を検討し、文献的な考察を交え報告する。

演題 3 肝肺症候群の一例

昭和大学横浜市北部病院・放射線科 同・呼吸器センター\*

福下貴子、藤澤英文、児島久美子、八木進也、馬場麻衣子、浮洲龍太郎、武中泰樹、櫛橋民生、笠原慶太\*、中島宏昭\*

【要旨】症例は 38 歳男性。B 型肝炎経過観察中に慢性咳嗽にて受診。低酸素血症も認めた。胸部単純写真で下肺野主体に間質影の増強が認められ、CT では胸膜下に網状変化や末梢血管拡張像がみられた。肺血流シンチで右左シャントを認めた。

#### 演題4 腹部CTより診断されたサルコイドーシスの一例

日本医科大学武蔵小杉病院・放射線科、東邦大学医療センター大橋病院・放射線科\*

金城忠志、一色彩子、奥山孝雄、清水貴弘、高間都支、市川太郎、佐藤雅史\*

【要旨】症例は50歳、女性。胃痛にて内視鏡を受けるが胃炎を認めただけだった。腹部CTで肝脾に多発する低吸収の腫瘤、撮影範囲内肺野に多発する小粒状影を認め、これらの画像所見よりサルコイドーシスと診断された。

#### 演題5 急激な経過をたどったリンパ腫様肉芽腫の一例

杏林大学・放射線医学教室 同・病院病理部\*

稲岡祥幸、横山健一、似鳥俊明、井野辺恵\*、藤原保範\*

【要旨】症例は48歳、男性。発症から約1ヵ月半で死に至るという急激な臨床経過をたどったリンパ腫様肉芽腫症の一例を経験したので、文献的考察を含めて報告する。

#### 演題6 Bronchial hemangioma の一成人例

聖マリアンナ医科大学・放射線科

赤下志保、栗原泰之、八木橋国博、萩野りょう子、高橋美緒、中島康雄

【要旨】29歳女性。検診にて異常陰影を指摘。CTにて右B9-10分岐部に造影される気管支内に突出する腫瘤で、MRIではDWIとT2Wiで高信号を示した。気管支鏡では血管に富んだ柔らかい腫瘍であった。

17:25 閉会の辞 横山 健一

17:40 情報交換会 東京コンファレンスセンター・品川 “Something Delicious”



# tokyo conference center

東京コンファレンスセンター



- JR・東海道新幹線・京浜急行 品川駅「港南口」より徒歩2分  
(公共交通機関のご利用をお願いいたします)



**CONTRAST  
MEDIA**

**TERUMO**  
人にやさしい医療へ

造影剤	マグネスコープシリンジ
MRI用造影剤	100ml, 200ml, 300ml, 350ml
造影剤	イマジニール® 300 350
MRI用造影剤	300ml, 350ml
造影剤	ヘキサブリンクス320
造影剤	200ml, 300ml, 350ml
造影剤	リビオドールウルトラフルイド
造影剤	100ml, 200ml, 300ml

①効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください。

販売会社  
**テルモ・ジャパン株式会社**  
〒108-8501 東京都港区港南1-9-36

代理店(東京圏外)  
**テルモ株式会社**  
〒101-8572 東京都中央区区役所1-1-1 1F  
TEL: 03-6717-7000 FAX: 03-6717-7001

マグネスコープシリンジ、イマジニール、ヘキサブリンクス、リビオドールは、テルモの登録商標です。 © TERUMOは、この製品の登録商標です。 © TERUMO株式会社 2019年1月